【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年1月13日(2011.1.13)

【公開番号】特開2009-198762(P2009-198762A)
【公開日】平成21年9月3日(2009.9.3)
【年通号数】公開・登録公報2009-035
【出願番号】特願2008-39756(P2008-39756)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｆ　1/1368　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1335　(2006.01)
Ｇ０９Ｆ　9/30　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1333　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｆ　1/1368
Ｇ０２Ｆ　1/1335　５２０
Ｇ０９Ｆ　9/30　３３８
Ｇ０９Ｆ　9/30　３４９Ｄ
Ｇ０２Ｆ　1/1333　５００

【手続補正書】
【提出日】平成22年11月22日(2010.11.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
基板上の表示領域に設けられた複数の画素と、
隣合う前記画素間において、前記基板に設けられた溝部と、
前記溝部を規定する第１斜面及び第２斜面を夫々覆うように形成される第１反射膜及び第２反射膜と、
前記第１反射膜及び前記第２反射膜によって囲まれるように前記溝部内に形成された半導体素子と
を備えたことを特徴とする電気光学装置。
【請求項２】
前記溝部内において前記第１反射膜及び前記第２反射膜上に形成された下地部を更に備え、
前記下地部の上面は、前記基板の基板面に沿った平坦面であり、
前記半導体素子は、前記平坦面上に形成されていること
を特徴とする請求項１に記載の電気光学装置。
【請求項３】
前記半導体素子は、隣合う前記画素の配列方向と交差する方向に沿ったチャネル長を有するチャネル領域を備えること
を特徴とする請求項１又は２に記載の電気光学装置。
【請求項４】
請求項１から３の何れか一項に記載の電気光学装置を具備してなること
を特徴とする電子機器。
【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明に係る電気光学装置は上記課題を解決するために、基板上の表示領域に設けられた複数の画素と、隣合う前記画素間において、前記基板に設けられた溝部と、前記溝部を規定する第１斜面及び第２斜面を夫々覆うように形成される第１反射膜及び第２反射膜と、前記第１反射膜及び前記第２反射膜によって囲まれるように前記溝部内に形成された半導体素子とを備える。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
本発明に係る電気光学装置の他の態様では、前記半導体素子は、隣合う前記画素の配列方向と交差する方向に沿ったチャネル長を有するチャネル領域を備えてもよい。